

# きんぎょる便り

第295号  
令和6年10月

〒679-1434  
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八十二  
株式会社 新宮運送グループ  
代表/木南 一志  
kininami@shingu.co.jp  
電話 079-11-751212



新宮運送ホームページ

## 責任の重さ

このたび、兵庫県トラック協会の会長職を務めることになりました。昨年度に役員改選があり、一期で辞めたいという原岡会長を2024年問題の始まりだからと説得して二期目を務めていただいておりますが、まさか突然旅立たれることになるとは思いもしないことでした。そこまで体調が悪いという感じは全くなく、一カ月ほどでの急変でした。それだけに第一報をいただいたとき、大変驚きました。なかなか現実を受け入れることができず、仕事も手につかないまま時を過ごすことになりました。しかし、このままでは済まないという後継を受け、前会長の思いを少しでも実現しようとして決断いたしました。

トップの責任の重さは知ってはいるものの、会社とは違う形での組織で、行政の仕組みに組み込まれている業界団体でもありますから、単に物事を進めていくわけにはいきません。いろんな意見に耳を傾けながらも決めるべきは決め、実行すべきは実行せねばなりません。理屈は分かっているつもりでしたが、いざスタートしてみると宛て職の多さや会議の多さにあらためて驚かされています。

知っているつもりであった自分の至らなさを反省させられているような感覚を持ちながらも進んでいかねばなりません。本業であるがゆえに理想とするところをこれまでも追いかけてきました。現場のドライバーの負担を少しでも和らげることができないかと、全日本トラック協会でも挙手して意見を述べてきました。

新しい法律ができて、物流の仕組みが変わろうとしているさなかでもありますから、迂闊なことを口にはできません。

これまでの自分の人生を試されていくような思いで、逆風の中で舟を漕ぐ努力を続けていく決意でもあります。

来年春には「きんぎょる」も三〇〇号を迎えます。ここをケジメとしての終了宣言としておりましたので、社業についても一つの節目をつけて進んでいきたいと考えております。政治も経済も大きく変わる時期に、こうして役割を与えられる意味を自分なりに感じながら取り組んでまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

## 尋常小學國史 上巻

### 第十六 源義家 ①

地方に武士おこる

清和源氏

頼義義家と  
共に陸奥の  
安倍氏を討つ

義家の武勇

頼義清原武則の助を得て安倍氏を討つ

義家のなき

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていただいております。

藤原氏の衰ふる間に、武士しだいに勢を得るに至れり。さきに藤原氏が榮華をきはめて、地方の政治をかへりみざりしより、才氣ありて藤原氏におさへられたる人は、地方の官吏となりて諸國に下り、遂にとまりて武士となるもの多かりき。中にも源氏は第五代清和天皇より出でて、はやくより勢強く、代々功をたてて武名をあげしが、義家に至りて最もあらはれたり。

源義家は頼義の長男にして、八幡太郎と稱す。後冷泉天皇の御代に、安倍頼時といふもの、陸奥にありて、多くの土地をかすめ取り人民を従へてそむきたれば、朝廷は頼義に仰せて之を討たしめたまふ。頼義は義家と共に、陸奥に至りて頼時と戦ひ、遂に之を誅せり。されど頼時の子貞任、宗任等なほ勢強くして、容易に従はず。頼義進んで之と戦ひしが、折からの寒さに雪さへ降りて、道路の困難いはん方なく、其の上兵糧足らずして人馬共につかれ、さんぐにうち破られたり。義家時に年十七なりしが、武勇人にすぐれ殊に弓の上手なれば、馬を飛ばして數多の敵を射殺し、頼義父子をはじめ主従わづかに七騎、切りまくり、からうじて敵の圍をのがれ出づることを得たり。

かくて賊の勢ますく、強かりしかば、頼義はすくひを出羽の人清原武則にもとめたり。武則兵をひきゐて來り助けしかば、頼義これと共にしきりに賊を破り、衣川の館にせめよせしに、貞任かなはずして逃げいでしを、義家これを射んとて追ひつめし時、衣のたてはほころびにけり。とよみかけたるに、貞任ふりむきて、年をへし糸のみだれのくるしさに、と答へたれば、義家大いに感じ、弓につがひたる矢をはづして、貞任をのがしやりしといふ。

つづく